

## 平成29年度第4回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会(日高会場)

1 日時：会場 平成29年8月31日(木) 13:30～16:30 日高川交流センター

2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者  
教育関係者 県立学校教職員 共育コーディネーター  
合計 67名

### 3 内容

#### ◆講演「コミュニティ・スクールの底力」

文部科学省 CSマイスター

福岡県 純真短期大学 特任教授

今村 隆信 氏

○「コミュニティ・スクール」は、学校・家庭・地域の課題解決のための最高の「ツール」

- ・学校教育の充実
- ・家庭の教育力の向上
- ・地域の活性化

→「コミュニティ・スクール」のシステムを戦略的に利用しよう！



○「コミュニティ・スクール」で大切な3つのポイント

#### ①状況把握

子供、保護者、地域の実態をとことん突き詰めて、課題を浮き彫りに

#### ②双方向性

地域は「応援団」ではない  
役割をもって連携・協働を

#### ③継続性

負担感が無く、ずっと続く工夫を

○双方向関係の構築

- ・家庭⇔地域 → 学校 …… 学校への支援活動
- ・学校⇔家庭⇔地域 …… 三者による協働・共同活動
- ・学校 → 家庭⇔地域 …… 貢献・参画活動

それぞれの活動を教育課程内の活動として取り組む「三者連働カリキュラム」にすることが大切

○学校・家庭・地域が重なり合う活動を仕掛ける

(例)「メディアとのよりよい関係をつくりながら、家庭学習と読書の習慣をつくろう」

「発見！西小校区のよさ」

○「実践の合い言葉」

- ・してから言え、理屈はあとからついてくる。
- ・できることを、できる人が、できるだけ、無理をせず、ゆっくりと、何か一つでも始めてみよう！始めれば、何かが見えて、工夫する。工夫をし続ければ、本物になる。本物になれば、続く。

◆実践発表（高等学校の取組）

「社会につながる学びのカリキュラムマネジメントと教員組織」

富士市教育委員会 富士市立高等学校教育推進担当 指導主事 遠藤 健 氏

○富士市立高等学校の探究的なカリキュラム

- ・ 3年間でスキルアップしていく 5つの単元  
(序) → (論) → (活) → (究) → (夢)



○地域課題解決型キャリア教育での実感

- ・ 高校生は、地域に貢献したいと考えている
- ・ 地域は、若者の意見を取り入れたいと考えている

○目的＋多様性のあるカリキュラムマネジメントで

- ・ 人と人がつながる
- ・ 社会と学校がつながる

◆グループワーク「コミュニティ・スクールとして ①地域にお願いしたいこと ②学校が子供にできること ③共にできること」

◆質問コーナー

グループワークでの意見

- ①登下校の見守りや、地域の行事は地域の方で子供たちを見守って欲しい。休日や放課後の子供たちの過ごし方やふるさと学習等は、地域の力が必要である。
- ②教員は子供に学力をつけることが本分である。わかる授業づくりや体験活動の充実につながるような取組をしていく。
- ③高校では、ものづくりを通して地域の商店街の活性化へとつなげることができる。

会場からの質問

○コミュニティ・スクールでよかったことは？

学校運営協議会委員から、様々な意見をもらい、地域の方や保護者に関わってもらうことで、一つ一つの活動の意義や必要性を再認識できる。また、多様な人との関わりは、子供たちの社会力育成等につながる。

○教員の負担感はないのか？

最初は負担を感じるかもしれないが、これまでの取組をコミュニティ・スクールの視点で見直し、教育課程内で活動することができるので、負担感はない。

4 参加者の声（アンケートより）

（市町村担当者）

- ・「課題の発見と人選の大切さ」コミュニティ・スクールを立ち上げる際の重要ポイントを知ることができ、大変有意義な研修会となった。

（県立学校教職員）

- ・コミュニティ・スクールを導入するのに、どこから手をつければいいのか疑問に思っていた。まず、勤務校の課題を知るところから始めていきたいと感じた。